

談話会



テーマ 『気象変動に負けない稲作技術の確立・定着による、秋田米ブランドの再構築について』
 11月1日に、能代市文化会館で開かれた談話会。生産者やJA、行政、流通・加工関係者の10名が、テーマについて意見を交わし合いました。当JAからは、営農経済事業本部・営農経済課主査の細川剛が参加しました。



見交換では、近年問題となつている高温障害への対策も含めた、「高品質・高位安定生産を目指す稲作り」について、土壌改良材を利用した地力向上による根の健全化を図ること。また深水処理による弱小茎発生抑制、苗箱まかせなどを利用した健苗育成の徹底などが提言されました。

もう1つの課題である「技術情報の提供、地域の指導・支援体制の構築」については、県や各JAで行っている展示圃のデータを集約し、各地域に合わせた、質の高い指導・管理情報を発信すること。また携帯電話の普及を利用した、メールによる栽培管理情報の相互伝達や、地域農業の核となる生産者を通じた、地域生産者への指導・管理情報の拡散が提言されたほか、県・市町村・JAが一体となった、栽培講習会や研修会の質向上が提起されました。

また参加者からは、JAグループ全体として、営農指導部門への強化不足を指摘する声も聞かれました。



農業機械化ショー

協賛第2会場では、農業機械化ショー、物産販売展、植木苗木協賛会などが開催されました。

農業機械化ショーでは、低燃費・低騒音を可能にした農業機械を目玉に、各メーカー自慢の製品が会場を埋め尽くしました。特にコンバインや、乾燥・調製機械には人だかりがで、稲や大豆、そばに麦も刈り取り・脱穀が出来る「汎用型コンバイン」には、たくさんの注目が集まっていました。また担当者による実演紹介や、来場者の試乗・試運転なども行われ、生産者はもちろん、一般のお客さんも楽しめるイベントとなりました。説明を受けた生産者の中には、今



後の農作業へ向けて、さっそく購入手続きを行う人もおり、最新機械を間近で確認できる絶好の機会となりました。

物産販売展では、会場に様々な屋台がずらりと並び、親子づれやお孫さんを連れた年配の方々が多く訪れました。恒例の牛・豚串焼きや、すじこ・たらこも大好評で、買い求める人達で行列が出来ていました。

植木苗木協賛会では、県内外の15業者が参加して、色鮮やかな花々で会場を彩りました。訪れた人々は、きれいに咲いた花を見定めながら、目当ての物を見つけて買い求めていました。また苗木では、カキやウメ、イチジクにクリなど実がなるものが人気で、数種類の苗木を両手にいっぱい買いに来場者も見受けられました。

